

家庭での教育を

桑島千秋さん

柳島(26歳)



もう10年以上昔のことです。私たちが中学生だった頃、塾の行き帰りに自転車で横に広がって走ることは、しょっちゅうでした。悪いこととはわかっているのですが、つい友だちとの話に夢中になってしまうのです。

視線もそれるし、注意力も散漫、安全なわけがありません。

いま、免許を取って実際に車を運転していると、昔の私たちを見るようで

ゾットすることがあります。運転者が十分注意して追い越すことはもちろんですが、自転車に乗る側もそれなりにマナーを守ってほしいものです。

子供のある家庭は、家族で車に乗った時など、折にふれて自転車の安全走行について説明してあげたらいいのでは…。自分が車側になってみれば横列走行が、いかに危険なことかよく理解してもらえんと思います。



〔安全運転には細心の注意を払う幡野さん〕

自分の身に責任をもて

幡野 博さん

高嶺町(34歳)

タクシードライバーになって6年。職業から安全運転を心がけることは最も重要な仕事です。狭い道、歩道のない道、幼児が遊んでいる所を通過するときは、細心の注意を払って車を走らせています。ドライバーとして感じる事は、小学生、中学1年生くらいの子供たちは、学校での交通安全教育が行き届いているせいか、ル

ールを守りマナーもよいと思います。

しかし、中学の高学年、高校生は、登・下校時に道いっぱい広がって歩くなど、マナーに欠けるところが目につきます。彼、彼女たちにいま一度マナーについて考えてもらいたいと思います。車社会といわれる世の中いくら注意しても、残念ながら事故は絶えていません。自分の身は責任をもって自分で守る。自分の身を守れない幼児やお年寄り、みんなで保護してやる。これが基本的なマナーだと思います。



大昭和製紙、元野球部の監督として活躍。4月から吉原商業高校野球部の監督に就任。

あん どう よし はる
安藤喜春さん

(43歳)

四月七日、市立吉原商業高校野球部の監督に就任した安藤喜春さん。社会人野球の名門大昭和製紙の選手として、また監督として活躍。昭和四十九年には大昭和白老チームを率いて都市対抗野球に優勝。五十五年にも大昭和富士チームを全国優勝に導き、監督として一度の全国制覇をなしている。

市民も期待していますが、今後の目標をスバリに立ち、市民とのコミュニケーションに役立てばと思っています。

— 今後の目標をスバリ —
高校野球ですから、もちろん目標は一つ、でも勝負は水もの、厳しい練習に打ち勝ち社会に出て立派に通用する人間を育てたいですね。と語ってくれました。

安藤監督と吉商チームに多いに期待します。